

久保幸治議員



● 今回の市長選の結果について  
● 子ども医療費の病院窓口無料化について

その他の質問

- ・国民健康保険税の引き下げについて
- ・地域経済をよくする政策について
- ・まちづくりと原子力発電所の再稼働について
- ・TPPについて
- ・安全保障関連法案（戦争法）について

一般質問

**問** 年配の方からの「生活が苦しい」という声が多く聞かれる現状において、ここにこそ優先的に行政の手を差し伸べるべきと考える。

**答** 今回の選挙は従来の大型開発公共事業中心が、生活優先の行政かという市民の審判の選挙であったように思うが、市長選の結果について市長はどのように思われるか。

**答** 今回の選挙は非常に厳しい結果であったと認識している。そのことを真摯に受け止めるとともに、市長に当選できたことは、4期16年の実績に対する評価と市民の皆様からの信頼を戴いた結果であり、今後も勝山市の発展と市民の幸せの実現のために全力を尽くして市政運営に取り組む決意をしている。

**問** 子ども医療費助成は勝山市では平成29年4月から小学校卒業まで自己負担が無くなるようだったが、

坂井市や永平寺町同様に中学校卒業まで子ども医療費助成の拡大を求めるとともに、病院窓口での自己負担無料化を早期に実現すべきと考える。市長の見解を伺う。

**答** 県内トップの子育て支援を目指すために、医療費助成を高校生まで拡充など、更なる子育て支援を検討し、子育て世帯を広く支援していきたい。

子ども医療費の医療機関での窓口無料化については、毎年県への重要要望事項として強く要望している。窓口無料化は、県下統一での実施でないことと窓口に混乱するおそれがあることから、県が中心となって、課題の整理やスケジュールの検討及び国民健康保険団体連合会との調整が続けられている。

窓口無料化が医療費を膨張するとして、国民健康保険への国の補助金を減額するペナルティーがある。国ではニッポン一億総活躍プランの中で見直しを行うとしており、検討が進められている。市としては、国の検討の動向を注視している。

下道恵子議員



● 教員の部活動の休養日について  
● 勝山市の農業の将来について

その他の質問

- ・障害のある方とのコミュニケーションツールについて
- ・障害のある方への情報発信について
- ・災害時の障害の人への避難対応について

一般質問

**問** 教員の多忙化による長時間労働の要因の一つに、毎日の部活動の指導や土日の対外試合への引率などで、私生活の時間にも影響を与える場合があるようだ。

**答** 改善策として「部活動の休養日」を設定することや、教師以外の「部活動指導員」を制度化することがあるが、現在の市の対応策を伺う。

**答** 原則として日曜日は活動を行わず休養日としているが、県中体連主催大会前や「福井しあわせ元気国体」に向けて、強化指定を受けている学校・個人は、学校長・保護者の了解において活動できる。また、毎月第3日曜日の翌日の月曜日を休養日にあてている。県教育委員会では、平日に週1回の部活動休養日の設定や外部人材の積極的活用を進めたいとしており、勝山市としても、学校現場の考えを聞きながら、部活動における教員の負担軽減を図りたい。

**問** 国が平成30年度より米の生産調整（減反）に参加した農家に支給する定額の補助金を廃止する

予定。農業の担い手の高齢化や育成も難しい現況において、勝山市の農業の将来について伺う。また、勝山でとれる野菜を、勝山ブランド化できるように、今から研究しておくことが必要だと考えるが、市の見解を伺う。

**答** 勝山市の農家数は、2005年から2015年の10年間で556戸減少しているが、農地総面積は10年間で35ヘクタールの増となっており、大規模化、集約化が進んでいる。勝山市としては、持続可能な農業を維持できるよう集落営農組織などの法人化等の取り組みを進めている。また、農業に意欲的な方々にも、様々な施策や取り組みを検討、実施しており、今後も取り組みたい。

野菜等のブランド化についても、「道の駅」での販売を検討するとともに、福井県やJ Aテラル越前とも連携を取りながら、特産物の収量の増加や高品質化、荒土のニンニクや野向のエゴマ等の栽培面積拡大など生産振興施策及び販路確保に向けた取り組みを行う。

野山等のブランド化についても、「道の駅」での販売を検討するとともに、福井県やJ Aテラル越前とも連携を取りながら、特産物の収量の増加や高品質化、荒土のニンニクや野向のエゴマ等の栽培面積拡大など生産振興施策及び販路確保に向けた取り組みを行う。